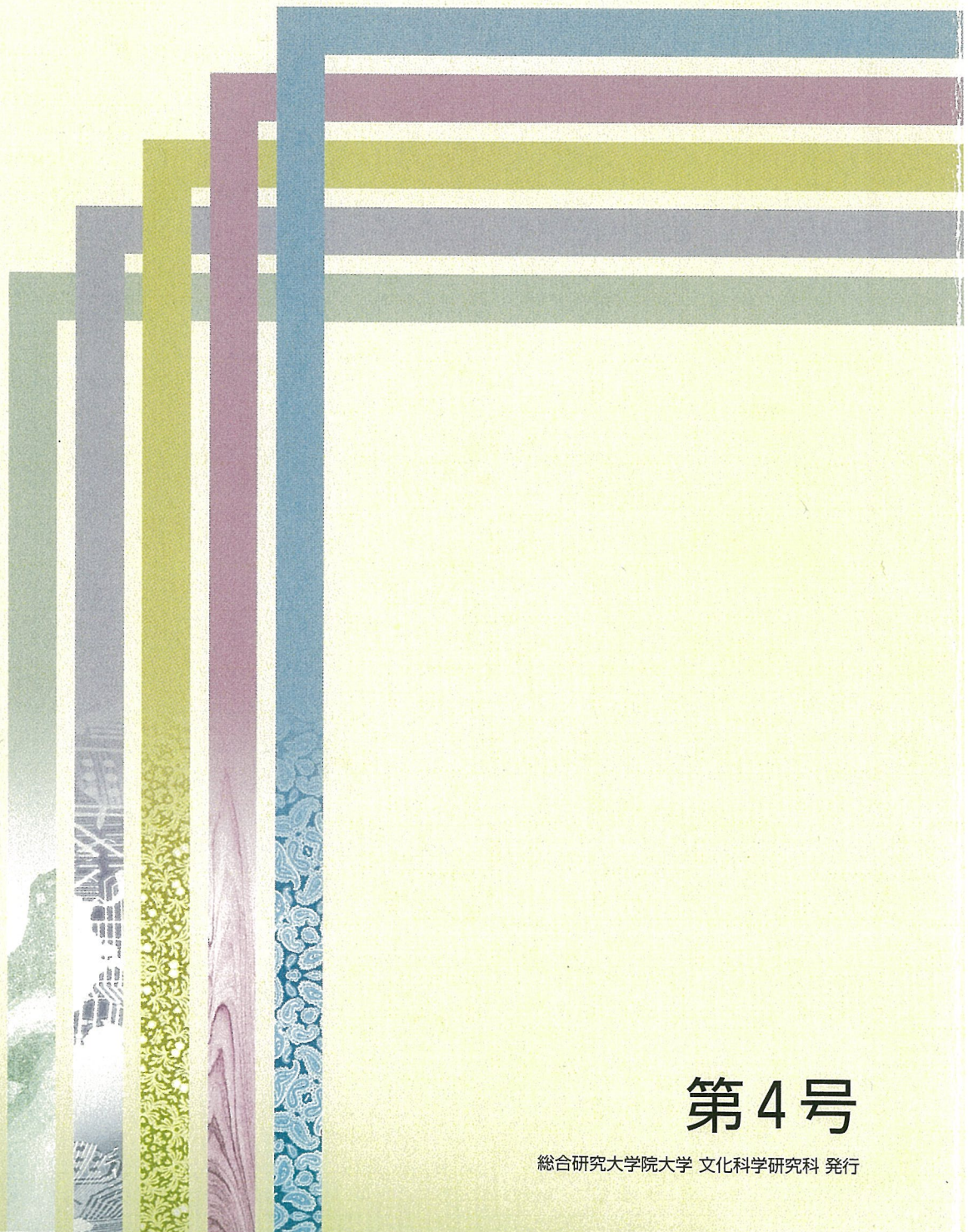


Sokendai Review of Cultural and Social Studies
総研大文化科学研究



第4号

総合研究大学院大学 文化科学研究科 発行

總研大文化科学研究第4号

リアリズムと虚実皮膜論

文化科学研究科・国際日本研究専攻 東 晴美 五

礪波今道年譜稿

文化科学研究科・日本文学研究専攻 一戸 渉 二七

『京極大殿御集』の構成と成立に関する試論

文化科学研究科・日本文学研究専攻 高野瀬 恵子 五九

戦前の木版画制作と浮世絵

―浮世絵研究雑誌における版画論争より―

文化科学研究科・国際日本研究専攻 小山 周子 139

農村女性によるヒマの発見

―秋田県大潟村の農業臨時雇いを事例に―

文化科学研究科・日本歴史研究専攻 渡部 鮎美 121

『遠野物語』をめぐる「神話」の構築過程

―その民俗学史的評価へ向けての予備的考察―

文化科学研究科・日本歴史研究専攻 室井 康成 97

野口米次郎の一九二〇年代後期の指向性

―雑誌『國本』への寄稿を中心に―

文化科学研究科・国際日本研究専攻 堀 まどか 83

編集者粕谷一希と『中央公論』

―「現実主義」論調の潮流をめぐって―

文化科学研究科・日本歴史研究専攻 根津 朝彦 57

韓国民俗学における「歳時風俗」の概念について

―越境的民俗学史のために―

九州大学大学院 人間環境学府 博士課程 大石 和世 25

清沢冽の人民戦線論

文化科学研究科・日本歴史研究専攻 佐久間 俊明 5

総研大文化科学研究 第四号
Sokendai Review of Cultural and Social Studies

発行日 平成二十年三月三十一日発行

編集 総研大文化科学研究科 編集委員会
編集長 竹沢尚一郎

発行所 総合研究大学院大学 文化科学研究科
事務局 総合研究大学院大学
学務課研究協力係

〒二四〇一〇一九三
神奈川県三浦郡葉山町（湘南国際村）
電話〇四六―八五八―一五八二
FAX〇四六―八五八―一五四一

印刷 日本写真印刷株式会社

創刊のことば

総合研究大学院大学文化科学研究科は、文化科学研究（Cultural and Social Studies）の国際的、学際的な発展に寄与し、かつ研究科内の連携強化をはかるために、高水準のレフェリー・ジャーナル（年刊）『総研大 文化科学研究』（Sokendai Review of Cultural and Social Studies）を創刊しました。

本誌は、

1. 広く内外から論文を募り、文化科学全般についての国際的に開かれた総合学術誌とします。論文の言語は問いません。
2. 研究科所属の専任・客員教員、大学院生・研究生に論文発表の機会を提供します。
3. 専門分野にとらわれない学際的、総合的な視野にたつ論文を歓迎します。
4. 研究科が編集委員会を組織し、運営にあたります。
5. 内外の第一線の研究者にアドバイザーをお願いし、不断に誌の質的向上をはかります。
6. 論文審査は関連分野の第一線の研究者に依頼します。
7. 人文・社会系では国内初のe-journalですが、活字媒体でも刊行します。
8. 募集要項、編集規定を別途掲載します。

2005年3月15日

2004年度総合研究大学院大学・文化科学研究科長 鈴木貞美

『総研大 文化科学研究』 アドヴァイザリー・ボード

ベフ・ハルミ（スタンフォード大学名誉教授）

田辺繁治（大谷大学教授）

フミコ・井川・スミス（マッギル大学教授）

ケイト・ナカイ（上智大学教授）

ジョン・クラーク（シドニー大学教授）

井上宗雄（立教大学名誉教授）

ハルオ・シラネ（コロンビア大学教授）

鳥越皓之（早稲田大学教授）

五味文彦（東京大学教授）

論文募集要項

- 応募資格、枚(語)数、言語は問いません。
- 論文 (end note方式。欧文の場合、両端揃えなし) には、応募時に当該言語ないしは日本語のサマリー (A4 40×40字, 1~2枚程度)、英文サマリー (A4 double space, 0.5~1枚)、当該言語ないしは日本語と英語のキーワード (5~10)、および総研大文化科学研究科の専任教員による推薦文をつけてください。
- 推薦文は、日本語または英語で、推薦する論文の「テーマ、方法、学術上の意義」について、A4 (日本語の場合 40×40、英語の場合double space) 1枚程度にまとめてください。
- 総研大 (専任・客員) 教員が応募する場合は、自薦文を上記要領をつけてください。
- 論文の区分は (1) 論文 (2) 研究ノート (3) 資料紹介 の三区分別とします。
- カラー写真は、論文ごとにまとめて掲載します。
- 締め切り：毎年10月31日 (厳守)
- 提出先：推薦者の所属する専攻の本誌編集委員。
- 刊行：毎年年度末。(e-journalは総研大本部のホーム・ページに掲載し、活字媒体でも発行します。)
- なお、論文表記の体裁については本研究科各専攻の本誌編集委員にお尋ね下さい。

2004年11月1日

総合研究大学院大学文化科学研究科 専攻長会議
(2006年10月19日、改訂)

『総研大文化科学研究』編集規程

平成16年1月27日 総研大文化科学研究編集委員会決定

- 第1条** 誌名は、「総研大文化科学研究」(Sokendai Review of Cultural and Social Studies) (以下「ジャーナル」という。)とする。
- 第2条** ジャーナルは、当分の間、年1回の刊行とし、総合研究大学院大学葉山本部のホームページ・サーバーを用いたE-journalおよび印刷物とする。
- 第3条** 編集委員会は、責任をもってジャーナルを刊行し運営する。
- (1) 各専攻より1人の編集委員を選出する。ただし、専攻長の兼任をさまたげない。
 - (2) 編集長、副編集長はそれぞれ研究科長、副研究科長が兼ねる。
 - (3) 編集長、副編集長および編集委員は無給とする。
 - (4) 編集委員は当該委員が所属する専攻の専任教員とし、投稿原稿及び推薦文の受領、それらの管理、進行およびジャーナル刊行後の処置に責任を有する。
 - (5) 編集委員会は投稿原稿ごとに査読者を2人選定する。
 - (6) 編集作業およびその取扱いは別に定める。
- 第4条** 編集委員会は、国内外の各分野における第一線の研究者にアドヴァイザリー・ボードを委嘱する。外国人を半数以上入れることが望ましい。
- (1) アドヴァイザリー・ボードはジャーナル編集上の改善策、適切な査読者の紹介等、編集委員会に助言を行う。なお、年1回の刊行につき、必ず報告書を提出する。
 - (2) アドヴァイザリー・ボードは10人程度とし、その謝礼は年1回の刊行につき3万円とする。
- 第5条** 国内外の当該分野における査読者を投稿原稿1点につき、2人委嘱する。
- (1) 査読者は編集委員会が定めた査読要領に従い、投稿原稿を査読する。
 - (2) 査読料は1件につき3万円とする。
 - (3) 査読要領は別に定める。
- 第6条** 投稿要領および執筆要領は別に定める。なお、日本語論文についての執筆要領は、当分の間、定めないこととする。
- 第7条** 投稿原稿および掲載論文の区分は次に掲げる3区分とする。
- (1) 論文
 - (2) 研究ノート
 - (3) 資料紹介
- 附則** この規程は平成16年1月27日から適用する。

Sokendai Review of Cultural and Social Studies

Published by
The Graduate University for Advanced Studies
School of Cultural and Social Studies

vol.4

Sokendai Review of
Cultural and Social Studies

vol.4

総研大 文化科学研究 第4号 目次

清沢洌の人民戦線論

文化科学研究科・日本歴史研究専攻 佐久間 俊明 5

韓国民俗学における「歳時風俗」の概念について
—越境的民俗学史のために—

九州大学大学院 人間環境学府 博士課程 大石 和世 25

編集者粕谷一希と『中央公論』
—「現実主義」論調の潮流をめぐって—

文化科学研究科・日本歴史研究専攻 根津 朝彦 57

野口米次郎の一九二〇年代後期の指向性
—雑誌『國本』への寄稿を中心に—

文化科学研究科・国際日本研究専攻 堀 まどか 83

『遠野物語』をめぐる“神話”の構築過程
—その民俗学史的評価へ向けての予備的考察—

文化科学研究科・日本歴史研究専攻 室井 康成 97

農村女性によるヒマの発見
—秋田県大潟村の農業臨時雇いを事例に—

文化科学研究科・日本歴史研究専攻 渡部 鮎美 121

戦前の木版画制作と浮世絵
—浮世絵研究雑誌における版画論争より—

文化科学研究科・国際日本研究専攻 小山 周子 139

『京極大殿御集』の構成と成立に関する試論

文化科学研究科・日本文学研究専攻 高野瀬 恵子 五九

礪波今道年譜稿

文化科学研究科・日本文学研究専攻 一戸 渉 二七

リアリズムと虚実皮膜論

文化科学研究科・国際日本研究専攻 東 晴美 五